

# 「くまの木」ヒトとムシの楽園プロジェクト

会報ムシプロ第16号

2018年7月



ノコギリクワガタ (クワガタムシ科)

## 目次

1. 6月活動報告 . . . . . 2～3
2. 7月活動について . . . . . 4
3. ムシプロだより . . . . . 5～6
4. 自然の愉しみ方 (梅雨・夏) . . . . . 6～7
5. 事務局より . . . . . 8
- 今月の表紙 . . . . . 8

## 1. 6月2日（土）、3日（日）の活動報告

2018年第二回活動を6月2日、3日に行いました。スタッフ4人を含めて14人が参加しました。

2日は、ビオトープの整備（雑草取り）とモリアオガエルの観察を行いました。

花壇は「ムシトリナデシコ」のピンクの花が見ごろを迎えていて、ヒョウモンチョウの仲間、モンキチョウなどたくさんの蝶が訪れていました。



ビオトープの雑草取りは、木道の周辺を中心に行いました。雑草は、木道を覆うくらい成長していましたが全員で力をあわせて取りました。木道を歩くと見通しが良くなりとても気持ちよくなりました。

ビオトープ雑草取りの様子



作業前



作業後

モリアオガエルの観察は、夕食後からですが、生息環境、観察ポイント、危険箇所等を確認するため下見を行いました。

観察場所の池に行くと、木の枝にぶら下がっているモリアオガエルの卵塊をいくつも見る事ができました。今回の活動から参加した参加者は、初めて見る卵塊とカエルの合唱に感動していました。夜の観察では、産卵シーンを見ることはできませんでしたが、オスのモリアオガエルが姿を現してくれました。大きな目と綺麗な緑の体を手に振れることができました。

**夜の観察・採集では、慣れた場所でも明るいうちに下見をして生息環境、観察ポイント、危険箇所等を確認しておきましょう。**

モリアオガエル観察の様子



3日は、7月の活動で生き物観察を行う雑木林の下草刈りを行いました。去年、地主さんである庄屋さんから、コナラ中心の雑木林には、かつては「ミヤマクワガタ」などたくさんの生き物がいたが最近は少なくなったこと、年齢を重ねて手入れができなくなり除草剤を使ったことを聞きました。そこで、かつての生き物がたくさんいた雑木林にすべく整備をすることにしました。

作業を、刈り払い機で、笹などの下草を刈る班と、伸びすぎた枝を切り取る班の二班に分かれて行いました。下草が刈られ、伸びすぎた枝が斬られた雑木林は、歩きやすくなり、明るく風通しが良くなりました。

作業を終えた地主さんから、「こんなに綺麗になってとても嬉しい、下草刈りをしたのは何年ぶりだろうか？炭にするために手入れしていたころの姿に近くなった」とコメントをいただきました。また、お昼にお礼として「おにぎり」と「お味噌汁」をいただきました。

整備された雑木林の姿、地主さんのコメントで、おいしい「おにぎり」がより一層おいしく感じられました。「おにぎり」をほおぼる参加者の顔は充実感に溢れていました。

7月の活動がとても楽しみです。

### 3日の活動の様子



2日、3日の画像は、以下のアドレスをクリックしてパスワードを入力してください。

<https://opa.cig2.imagegateway.net/s/cp/GrgRGX5djPf>

パスワード：20180602

## 2. 7月14日（土）・15日（日）の活動について

花壇、ビオトープの整備と雑木林の生き物観察を行います。

### ■ 花壇、ビオトープの整備

4月と6月の活動でビオトープの雑草とりをしましたが、一か月も経つとまた雑草が勢いよく伸びて水面が狭くなっていると思います。雑草を可能なかぎりにとって水面の面積を回復させます。

また、花壇に植栽した植物に十分に陽が当たるように雑草をとります。

時間があれば、東荒川河川敷のヤナギの木を見に行きましょう。

参考:2017年の活動の様子



### ■ 雑木林の生き物観察

6月の活動で下草刈りを行った雑木林で樹液に集まるムシの観察を行います。

観察は、民宿「庄屋」に宿泊して早朝、昼、夜と時間を変えて行います。

夜の観察では、ライトトラップを設置して光るに集まるムシも観察します。

これまで、カブトムシ、ミヤマクワガタ、ノコギリクワガタ、シロスジカミキリ、カナブン、アカシジミ、コムラサキを観察しています。

また、15日の朝早く起きて「ヒグラシの鳴き声」リレーを聞きましょう。

詳しくは、6ページの「自然の楽しみ方 ヒグラシは二度鳴く」を見て下さい。



民宿「庄屋」



ノコギリクワガタ



ヒグラシの鳴き声リレー

ヒグラシの鳴き声が、遠くの山から聞こえ始め、左の木に到達する

### 3. ムシプロだより

#### 加藤さんの近況です。

宇都宮に住んで早 22 年になります。気が付けば人生の中で一番長く住んでいる場所です。自然豊かで家から徒歩でカブトムシのいる森があります。



朝早くに子供と森に入ってカブトムシを観察するのを楽しんでいましたが、最近は水中の生き物の生態を観察すべく、金魚、タナゴ、イモリを育てています。きっかけは家から徒歩 10 分歩くと川があり、釣り餌を入れた入れたペットボトルを仕掛けたら、川魚がいっぱい入っていたことです。カワムツ、モツゴ、アブラハヤ、ドジョウ、ヨシノボリなど、こんなに色々な魚がいるのだなと子供と水槽に入れて観察をしました。その中にタナゴもいました。

タイリクバラタナゴという外来種でしたが、色鮮やかな姿で「よし！これを育てよう！」という事になりました。一匹ではかわいそうなのでホームセンターで数匹購入し、二枚貝も水槽に入れて卵を産むか観察してみようと思ったのですが、中々卵を産んでくれません。挙句の果てに二枚貝が死んでしまい、現在 2 匹目の二枚貝を水槽に入れてあります。出産する環境が悪いのか原因は不明ですが、しばらく待つてみたいと思います。



金魚は地域のお祭りで子供が金魚すくいをやって飼い始めました。出目金もいたのですが、育てるのが難しいのか死んでしまいました。

そこで比較的育てやすい「小赤」を数匹育てています。じーっと眺めていても飽きません。とても癒されます。水の交換は月 1 回程度ですが、砂利を洗いすぎないように注意しています。水の中のバクテリアがなくなってしまうと良くないとの事です。昔はカルキ抜きといった氷砂糖みたいな固定タイプでしたが、今は液体でとても簡単に金魚の水を作ることができます。このまま育てると大きくなるようです。



イモリ二匹、これが子供の一番のお気に入りです。用水路でゲットしてきた天然ものです。私も小さいころに母の田舎（三重の山奥）でたくさん採った事があるのですが、家で飼ってもすぐに死んでしまうから逃がしてやりさないとと言われて渋々逃がした思い出があります。それがホームセンターにも売っているし、ネットで育て方を検索したら、20 年くらい生きるって記載されているので、驚きました。おなかが赤く



て気持ち悪い生き物と思うかもしれませんが、よく見るととてもかわいい顔をしているし、動きもかわいいですね。

カメの餌を与えて元気に育っていますが、水槽が小さいのでもう少し大きめに交換しようと思っています。

(写真・文 加藤 丈晴)

## 4. 自然の楽しみ方（梅雨・夏）

### ● ムシたちの夏（樹液をめぐる戦い②）

夏になるとクヌギ、コナラ、ヤナギに樹液を提供する昆虫酒場が開店する。昆虫酒場には樹液を求めてカブトムシ、クワガタムシ、スズメバチ、カナブン、ハナムグリ、オオムラサキ、キタテハ、ルリタテハなどタテハチョウの仲間などが集まる。樹液が良く出ている場所は、限られているため必ず争いがおきる。力の強い者から良い場所を確保していくことになるが、今回はカナブンの戦い方に注目してみたい。

カナブンは、カブトムシのような角はないが、「強い足腰」と「軽快な動き」で戦う。体を木の幹にぴったりと付け、頭を下げて潜り込む。カブトムシは角をカナブンに向けて追い払おうとするが軽快な動きでひらりとかわす。カブトムシは、この小さな相手にてこずるのだ。相撲に例えるならば、体の小さな力士が土俵の中を動き回り、頭を下げて大きな力士のふところに飛び込む戦い方だ。カナブン同士だと戦いは、激しさを増す。頭と頭を押し付け合いぐりぐりと押し「押し相撲」を見せてくれる。カブトムシが相手の場合と違い、力が均衡しているのでお互いに一歩も引かないのだ。頭と頭がぶつかり、音が聞こえるほど激しい。



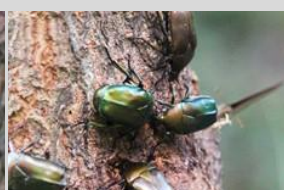
樹液に集まるカナブン

カブトムシ、クワガタムシを採集するのは、樹液をめぐるムシたちの戦いを十分に楽しんでから行いたい。(写真・文 西野 孝法)

#### カナブンの楽しみ方(色の違いを楽しむ)



銅色のカナブン



緑色が強いカナブン



青いカナブン



赤いカナブン

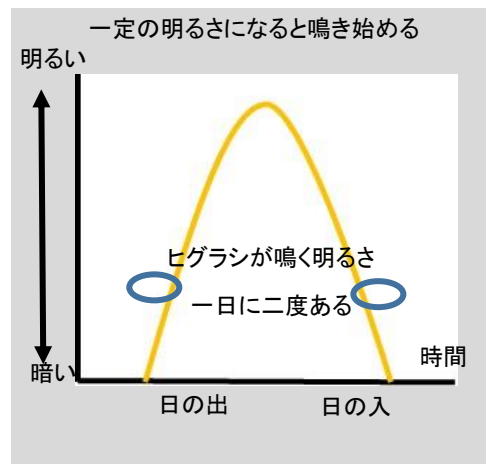
## ● ムシたちの夏（ヒグラシは、二度鳴く）

夕暮れに聞くヒグラシの鳴き声「カナカナカナカナ・・・」は、一日の終わりを告げるものとして、あるいは盛りが過ぎ衰えていく寂しいものとして古くから日本人に親しまれてきた。

朝からムシ探しをしていた私もこの鳴き声が聞こえると、家に帰る支度をしていました。私には、「暗くなる前に帰りなさい」と聞こえていた。

ある日、カブトムシを探るために日の出前から出かけていると、あの「カナカナカナカナ・・・」が遠くから聞こえ始め、やがてその声は目の前を通り過ぎていった。この時、ヒグラシが朝も鳴くことを知った。また朝の鳴き声は、夕方に聞くものと違ってとても力強く感じた。

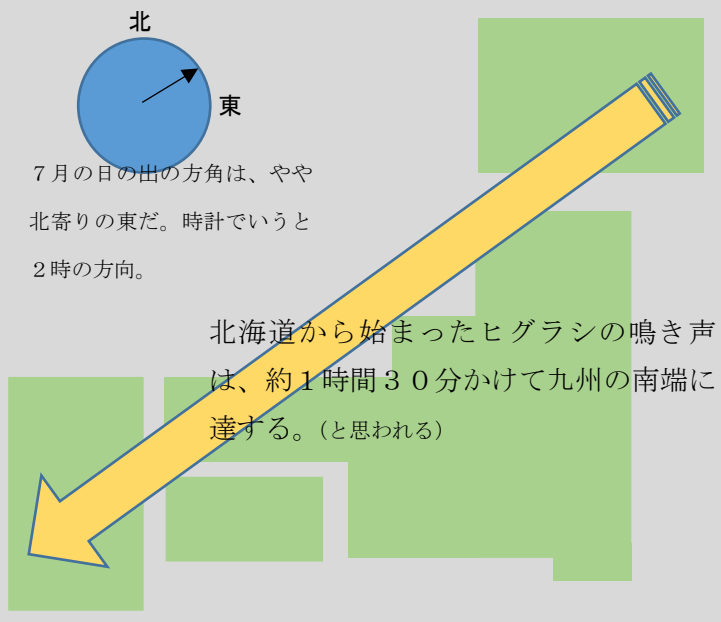
家に帰って図鑑を開くとヒグラシは、一定の明るさになると鳴き始めること、北海道から九州まで分布していることが、書いてあった。（※この当時、沖縄は、アメリカに占領されてたのです）



私の妄想？：日本列島は、細長い。東から西まで日の出の時間の差は、1時間30分近くになる。この日の出にあわせてヒグラシの鳴き声が、日本列島を東から西へ移動する。毎朝、ヒグラシの鳴き声が、東から西へ移動していく壮大なドラマが演じられている。

<7月15日の日の出の時間>

場所	日の出の時間
1 札幌	4時08分
2 仙台	4時25分
3 宇都宮	4時33分
4 東京	4時36分
5 静岡	4時43分
6 名古屋	4時49分
7 大阪	4時56分
8 高知	5時06分
9 広島	5時09分
10 福岡	5時19分
11 鹿児島	5時23分



## 5. 事務局より

会報の「表紙」と「自然の愉しみ方」で紹介した画像をイメージゲートウェイに登録しています。Wordに貼りつけてある画像より綺麗です、ご覧ください。アドレスは以下のとおりです。パスワードは、必要ありません。

<https://opa.cig2.imagegateway.net/s/cp/DMCYuTBGLSE>

画像はダウンロードできます。

2018年7月1日発行

発行： くまの木ヒトとムシの楽園プロジェクト

編集責任者： 西野 孝法

〒262-0026 千葉県 千葉市 花見川区瑞穂3-3-26

TEL: 090-9327-5606

Eメール：[harukan@ac.auone-net.jp](mailto:harukan@ac.auone-net.jp)

### 今月の表紙



夏の雑木林のムシの代表である。カブトムシとともに日本人にとって最も馴染の深いムシである。普段は、TVゲームやスマートフォンに夢中な子供たちもクワガタムシ採りとなれば時間を忘れて夢中になる。私は、今でも夢中になります（笑）。

樹液酒場では、アゴを大きく広げて機敏に動き回り戦うが、メスと出会うと優しく覆うようにして交尾する。ここのところがカブトムシと大きく違う。なんとカブトムシのオスは交尾を終えるとメスを角で投げ飛ばしてしまうのだ。

メスに優しいオスだが、メスとの相性が悪いとメスは交尾を拒否して逃げ出してしまう。オスは、大アゴの先を閉じてメスの頭を抑えて逃がさないようにする。この仕草がとてもけなげで、思わず「ガンバレ！」と応援してしまう。

(写真/文 西野 孝法)